

主体的に考え実行し成果を上げる二学期 成果を上げるコツ

校長 村上 昭夫

○二学期の始業を迎えました

二学期はこれまでに取り組んできたことの成果が出始める学期となります。人と比べる必要はありません。生徒の皆さんは、学習、学級、生徒会、部活動、家庭学習そのほか、どこかの場面で必ず頑張ってきています。

◆成果を上げるコツは二つあります

ある人から話を聞いたことがあります。成果を上げるコツが2つあるということです。それは、「コツコツ」取り組むということです。なるほどコツが2つあります。(笑) うまいことを言ったものだと思いますが、なるほど、と思わせます。コツコツに取り組んでいくことが成果を上げるコツであることに間違いありません。

■もう一つ「コツ」があります

昨年もお話したことですが、年に1回はお話ししたいことです。「脳」の働きの面から脳神経外科医の林 成之先生は著書「素質と思考の『脳科学』で子どもは伸びる」の中で以下のように述べています。

「最初に『自己管理能力』を高めないと、子供の学習効果は上がってこない。いくら、先生と子供が共に努力し、勉強やスポーツを行っても、『まあ、いいか』『だいたいできた』と、中途半端で終わらせてしまう『自己管理能力』の低い子供は、成績が伸びない。」

「論語」の一節です。私の経験ですが、この言葉に出会う前は授業の内容や、問題集の問題の解き方などについて、「大体わかった。」「たぶん~だろう。」という段階でも「知る」だと思っていました。しかし、その後は、「大体」とか「たぶん」の段階を「知らざる」だと思おうようにし、質問したり、繰り返し問題を解いたりして「わかった」と言えるようにしました。学習への理解度や定着度が増してきていることを実感できました。成果が上がりました。やりきることが大切です。

子曰く、由よ、女(なんじ)にこれを知ること
を誨(おし)えんか。これを知るをこれを知ると
為し、知らざるを知らずと為せ。これ知るなり。
(為政篇)

先生(孔子)がいわれた、「子路(由)よ、お前に知るといことを
教えようか。知ったことは知ったこととし、知らないことは知ら
ないこととする、それが知るといことだ。」

【参考】「論語」金谷治訳注 岩波書店】

○二学期のスタートをうまく切れるように、気にかかること、心配事などは相談してください。きょううま~く二学期を過ごすことができると思います。

◆引き続き新型コロナウイルス感染症予防と熱中症要望に留意しながら、自分の力を今学期も発揮していくことを期待いたします。保護者の皆様のご理解ご協力も重ねてお願い申し上げます。

〇〇〇二学期始業式もリモートで〇〇〇

いよいよ二学期が始まりました。リモートでの儀式にももうすっかり慣れてきて、滞りなく式が終わりました。教室には二学期から遮光カーテンが導入され、電子黒板が見やすくなったと、生徒からも好評です。今週は、例年であれば夏休み最後の1週間となるところですが、今年は仕方ありません。みんなに会える日が増えたと、いいように解釈して気持ちを切り替え、充実した学校生活をみんなで作っていきましょう。

〇〇〇3年生、部活動がんばりました〇〇〇

夏は、3年生が部活動に区切りをつける時でもあります。今年は感染症対策のため、様々な大会等が中止となりました。しかし、それぞれの分野での代替大会等が実施され、運動部の生徒たちは「引退試合」に臨みました。残念ながら諸事情で参加できなかった部活動もありますが、一部の文化部の生徒以外は石川台中学校での部活動を終了しました。先日、卒業アルバムの写真撮影が行われました。撮影に際しては、感染症対策を十分に考慮するとともに、短時間で行いました。みな、とてもいい笑顔でした！これからアルバム撮影を行う部活動もあります。

～ 10月には生徒会役員選挙があり、2年生へとバトンをつなぐこととなります。
3年生のみなさん、前期の締めくくりをよろしくお願ひします！ ～